

在宅看護学実習

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 岩渕 光子 准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	4	区分・時間数	実習 75 時間
期 間	前期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

訪問看護ステーション、地域包括支援センターの業務に参加し、訪問看護や包括支援センター業務の実際を体験し、在宅療養者に対する看護の機能、役割を理解する。具体的には、訪問看護ステーションの事例に対応する看護職に同行し、居宅における看護を学修するとともに、地域で療養者を支援するための医療機関、薬局、福祉サービスの実際の活動を見学し、訪問看護の役割を学ぶ。そして、地域包括ケアシステムをマネジメントしている地域包括支援センターの役割を理解する。

・教育成果（アウトカム）

訪問看護ステーションでの在宅看護の実際を体験することにより、地域で生活する人々への看護方法を考えることができる。さらに地域包括支援センターの活動を体験することにより地域のケア体制を理解し、関係機関との連携および看護の役割を説明することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 地域看護に必要な知識・態度を身につける。
2. 対象者及び家族を地域の生活者としてとらえることができる。
3. 訪問看護による支援方法を考えることができる。
4. 地域における関係機関の連携を理解し、看護の役割を認識できる。

・授業日程

【実習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
各グループの実習期間は、実習要項等に記載する。			地域包括ケア講座	岩淵 光子 准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 赤井 純子 助教	訪問看護ステーション実習 ・訪問看護の見学、実践 ・受け持ち事例の看護過程の展開 ・退院前カンファレンス、サービス担当者会議、グループホーム等への健康管理支援の見学 地域包括支援センター実習 ・家庭訪問や相談の見学 ・介護予防事業、多職種連携会議等の見学 ・社会資源マップの作成を通じた地域特性の理解 *詳細は実習要項に記載 到達目標は前頁に記載の通り

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論	河原加代子 他	医学書院	2017
教	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術	臺 有桂 他編	メディカ出版	2018
参	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	2020
参	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア	臺 有桂 他編	メディカ出版	2019
推	強みと弱みからみた在宅看護過程	河野あゆみ	医学書院	2018

・ 成績評価方法

在宅看護学実習評価表に基づき評価する。なお「実習への取り組み状況」の評価は、実習機関からの評価も参考にする。（在宅看護学実習要項参照）

・ 特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

事前学修は実習要項事前記録用紙による学修を課す。実習中は「自己学習」を課す。訪問看護ステーション実習時は在宅看護過程の展開、地域包括支援センター実習時は地域ケアシステムマネジメント等について学び、それぞれの記録用紙に記載する。これらの事前事後学修時間は最低 30 分以上を要する。

実習記録の様式は WebClass に掲載するので、用紙は不足する場合適宜ダウンロードして印刷すること。

* 実習要項参照

【レポート等の課題に対するフィードバック】

個人面接を実施し、実習記録は評価後に返却する。

産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習

看護師（別表 3）：臨地実習 統合分野 在宅看護論

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			